神奈川代協

新入会員向けにオリエンテーション開く
サイバーセキュリティセミナーで注意呼びかけも

神奈川代協（徳山信昭会長）は10月29日、横浜市のかながわ労働プラザで会員オリエンテーションを開いた。会員オリエンテーションは、新しく加入した会員に代協の組織や活動内容を理解してもらうための説明会。会の冒頭で挨拶した徳山会長は「神奈川代協は『つながる』をスローガンにしている。会員同士がつながる。そして、学びや情報を通じてお客様とのつながりをさらに深めていく。このつながりが、神奈川代協の大きな力になると考えている」と述べ、新入会員を迎えた。

徳山会長

第一部の会員オリエンテーションでは、神奈川代協副会長の西信勝氏が日本代協や神奈川代協について紹介した。代協組織の創設から今日に至るまでの沿革について説明した西氏は、近年の主な取組みの一つとして、金融庁との意見交換会を紹介。意見交換会は、金融庁保険課長と全国代協会長などで行われるもので、「代協側からは現場で発生している諸問題や顧客本位の業務運営に向けた創意工夫の取組み、代協会員の日常の活用などを伝えているとした。保険業界の現況については「今は以前よりも保険会社から情報が得られにくくなっている」として、保険会社と代理店の関係性が変化してきていると指摘。こうしたなかで、取扱い保険会社やチャネルを問わずさまざまな代理店が集う代協の意義についてふれ、「代協には多くの情報が集まる。ぜひ代協活動に参加して、多くの情報を自ら取りに来てもらいたい」と述べた。

次いで行われた第二部のサイバーセキュリティセミナーでは、神奈川県警察の外野智喜氏が講演。冒頭で外野氏は、国内で重大な情報漏洩が多発している背景として、進展するAIを悪用することでサイバー攻撃が高速化している可能性を指摘。AIの活用により、システムの脆弱性の発見から攻撃開始までに要する期間が短縮されているとした。

外野氏

一方で、サイバー攻撃で狙われやすいのは「API（プログラム同士がやり取りするための窓口）管理画面の設定不備」「脆弱性の放置」「クラウドの設定ミス」といった基本的な不備だと指摘。もし複数のパソコンがあるなかで一台のパソコンがサイバー被害やウイルス感染にあった可能性があるとみられたときは、他のすべてのパソコンのLANケーブルを外したりWi-Fiをオフにしたりするなどして被害が広がらないようにネットワークから切り離すことが大事だとした。その際は、電源を切ってしまうと感染源の究明がしづらくなることから、電源を切ったりコンセントを抜いたりしてはいけないと注意を呼びかけた。